

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 020	提案機関名 横浜農業協同組合
要望問題名 モネンシン給与によるルーメン内でのビタミンA濃度に及ぼす景況	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 モネンシンはイオノファ系の抗生物質であり、給与により飼料効率や増体成績の改善が認められる。本県内の肥育農家でもモネンシンを含む配合飼料を給与し、枝肉重確保に絶大な効果を上げている。肥育期においてモネンシンを含む配合飼料給与で血中ビタミンA濃度推移がモネンシン無添加配合飼料の給与時とは異なるという報告がある。 これはモネンシン給与によるルーメン微生物相の変化がルーメン内でのビタミンAの消失を変化させたものと思われる。 そこでモネンシン給与によるルーメン菌相の変化がルーメン内でのビタミンA濃度に及ぼす影響を確認願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	大家畜グループ
対応区分	①実施 ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	モネンシンは第一胃のルーメン微生物に作用することで飼料効率を改善し、また、ビタミンA分解能を有する微生物を減少させ、ルーメン内ビタミンA濃度の維持に効果があると報告されています。提案していただいた影響調査については、試験に供試する肥育候補牛を確保できないため、早急には実施できませんが、今後の課題化を検討していきたいと考えます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	モネンシン給与によるルーメン菌叢の変化がルーメン内でのビタミンA濃度に及ぼす影響（太田ら、全農畜産生産部研究所年報、2018）		